

東青 みどりの通信

NO. 94

平成24年
2月27日



東青地域県民局地域農林水産部
■ 農業普及振興室 ■

〒030-0801 青森市新町二丁目4番30号
TEL 017-734-9965 FAX 017-734-8305
E-mail hi-nosui@pref.aomori.lg.jp

祝！「緑白綬有功章」受章 大柳壽憲さん（青森市）

青森市で大規模複合経営を営む大柳壽憲さんは、今年度の農事功績表彰において「緑白綬有功章」を受章されました。



表彰式会場にて

この「緑白綬有功章」は、農事改良の実行に功績が顕著であり、地域農業の発展に貢献し、相応の農業所得を得ている農業者を対象として、公益社団法人大日本農会が、総裁（桂宮宜仁親王殿下）の御名をもって表彰するもので、明治27年に表彰制度が創設されてから今年度で第95回となります。

表彰式は、平成23年11月18日に東京都赤坂の石垣記念ホールで、受章者61名をはじめ農林水産副大臣など、多数の関係者が出席する中、盛大に行われました。

大柳さんはこれまでに、

①複数の作型を組み合わせたトマト栽培と冬場の葉物野菜栽培でハウスの周年利用を図るとともに、特別栽培米の契約栽培など米の販売ルートを多様化することにより収益性の高い大規模複合経営を確立したこと。

②組織のリーダーとして、地域の農業の振興と担い手の育成、野菜園芸技術のレベルアップと販路開拓に貢献してきたこと。などが高く評価されての受章となりました。

12月6日に県農林水産部長へ受章報告を行い、これからの抱負について語っていました。

大柳さんには今後とも地域のリーダーとしての活躍が期待されます。



県農林水産部長への受章報告

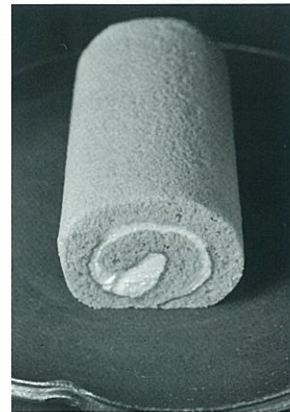
「あおり海道そば」をスイーツに ～ こだわりの2品目を販売 ～

そばの生産組織、市内そば店、製粉業者等で構成される「あおり海道そばブランド推進協議会（福士英雄会長）」では、あおり海道そば（東青産そば）を使用した「二八ロール」（そば粉8割、小麦粉2割使用）、「十割クッキー」（そば粉10割使用）を市内の洋菓子店ジークフリートと共同開発しました。

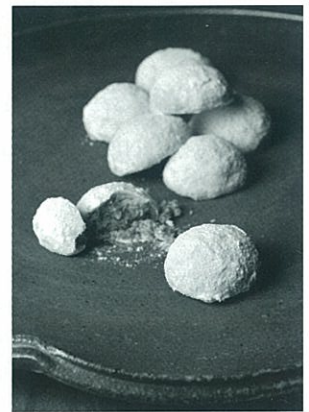
地元の方々をはじめ、東北新幹線などで来られた観光客にもあおり海道そばの魅力を発信でき、さらに若い人たちにも食べてもらえる商品をめざしました。

11月12日～13日に開催された大農林水産祭で試食とアンケートを実施し、同時に試験

販売を行ったところ、おいしいという感想やお土産として利用したいという声が8割近くあったことから、商品名にちなんで2月8日から、ジークフリート金沢店、青森農協あすなる直売センター、村の駅よもっと（蓬田村）で販売しています。



二八ロール



十割クッキー

家族経営協定を新たに3戸締結 ～ やり甲斐のある農家生活を目指して ～

家族経営協定は意欲ある担い手の育成と農村女性の地位向上の面から、家族全員が農業経営に積極的に参画し、経営方針の決定や役割分担、労働報酬、暮らし方等について家族で話し合い、やり甲斐のある農家生活を目指すことを目的としています。



合同調印式

平成23年度4月現在、東青管内の締結数は、31戸（漁家を加えると35戸）と、6県民局の中で2番目に少ない地域となっています。

そこで、農山漁村女性リーダー育成事業の一環として、「家族経営協定セミナー」を開催し、関係機関の職員や女性リーダーの理解を深め、地域に普及するよう努めています。

今年度は青森市で3戸の農家が締結したほか、見直し農家1戸を含めて計4戸での締結を達成することができました。

今後も家族経営協定の意義やメリットについて周知し、関係機関や締結農家と連携し、家族経営協定の良さをPRし、進めていくことにしています。

東青地域グリーン・ブルー・ツーリズムモニターツアー開催 ～ 里と海の魅力を発信 ～

県民局事業で取り組んでいる「東青の里と海のツーリズム推進モデル事業」の一環として、青森市浪岡地域と外ヶ浜町でグリーン・ブルーツーリズムのモニターツアーを実施しました。

10月19日(火)の青森市浪岡地域コースの「新野菜『マコモダケ』わくわく体験！」では、15人のモニターが美人川公園の散策やりんごセンター、道の駅なみおかアップルヒルの見学など浪岡地域の見所を巡りながら、新野菜である「マコモダケ」の収穫・調理体験を楽しむとともに、マコモダケづくしの料理を味わいました。

翌20日(水)の外ヶ浜町コースの「いちごDEスイーツ&海の幸発見！」では19人が、大山ふるさと資料館や、直売所「ウェル蟹」を巡っ

た他、ほうれん草といちごの収穫や、収穫したいちごを使った米粉ロールケーキ作りなどを満喫し、外ヶ浜町漁協で海の特産品を味わいました。

参加していただいたモニターからは、「申し分なし、最高でした。まだまだ知らないことがあった。今後も参加したい。」などの声や「もっとこうしたら良くなるのでは。」といった提案もあり、今後の活動に役立てていくことにしています。



マコモダケ収穫体験



いちごを使った米粉ロールケーキ作り

カシスマイスターとして16名認定

青森のカシス栽培は、30年を超える歴史があり、面積、生産量とも日本一となっています。しかし、単収が低く、収穫作業の効率が悪いなどの問題があり、地元加工業者からの需要に応えきれない状況にありました。

これらの課題を解決するため、平成22年度に「あおりカシスブランドパワーアップ支援事業」を創設し、カシス栽培技術の確立や生産者の技術向上をねらいとした活動に取り組んできました。

また、栽培管理技術の迅速な普及を図るため、カシスの新規作付者などを指導できる技術を持った生産者16名を「あおりカシスマイスター」として認定しました。

「あおりカシスマイスター」は、剪定や病害虫防除など高度な技術習得のためのレベルアップ研修を受講し、技術レベルが優秀で

あると評価された方々です。

認定式は去る2月1日に行われ、出席された12名にマイスターの認定書が授与されました。

出席者からは、これからも積極的に技術や知識を習得していきたいといった意見が出され、農業普及振興室では、今後とも研修会や情報提供により活動を支援していくこととしています。



やる気満々 12名のカシスマイスター

トマトのUターン栽培による誘引作業の省力化

トマト栽培では、誘引は重要な管理作業の1つで長期採りを行う上で必須な作業です。当地区の誘引方法の主流はひもによるつる下げ誘引で、この方法はトマト栽培全体に要する労働時間の約4割を占めています。

東青管内では、近年、栽培農家の高齢化によりつる下げ誘引等の作業が適期に行えない状況が出てきているため、誘引作業の省力化が見込めるUターン誘引法について検討したのでその結果を報告します。

【実証結果】

1 労働時間について

(1) 誘引にかかる10a当たりの労働時間は、慣行のひもつる下げが99.0時間であるのに対して、支柱Uターン誘引が48.0時間、ひもUターン誘引が34.5時間と、いずれのUターン誘引も大幅に省力でした。

(2) 誘引作業以外の労働時間は、支柱Uターン誘引は、支柱の設置に27時間、後片付けに9時間かかります。ひもUターン誘引は、直管パイプの設置に60時間かかりますが、1度設置すれば2年目以降の作業は必要ありません。

2 経費について

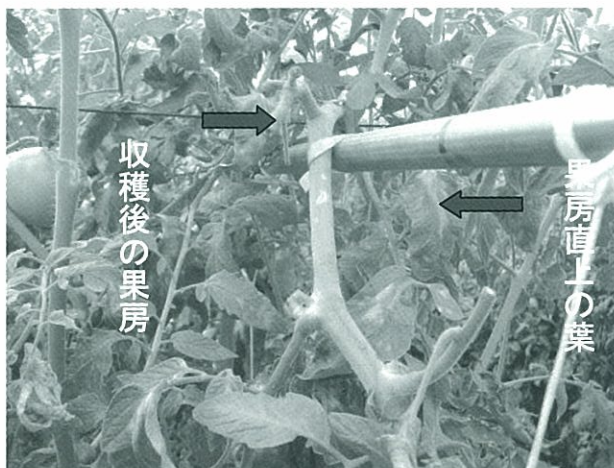
支柱Uターン誘引は、支柱代に345,800円/10aかかり、ひもUターン誘引では、直管パイプに101,880円/10aかかり、経済面ではひもUターンの方が安価となりました。

3 収量について

収量は、ひもUターン誘引が8,117kg/10a、支柱Uターン誘引が7,947kg/10a、ひもつる下げ誘引が6,743kg/10aで、どちらのUターン誘引もひもつる下げ誘引より高い収量でした。

4 オオタバコガについて

フェロモントラップを活用し、オオタバコガの発生活動も調査した結果、Uターン誘引ではUターン後に着果した果実で被害が少なくなるという興味深い結果となりました。



ひもUターン誘引

県農林水産物のモニタリング調査について

県では東京電力福島第一原子力発電所事故以降、本県の農林水産物の安全性を確認するため、県内4カ所に放射性物質測定機器を設置し、平成23年7月26日から県独自のモニタリング調査を実施してきました。

これまでに(平成24年1月26日現在)県全体で57品目694件の農林水産物、東青の農産物では、トマト、りんご、水稲など11品目41点について調査しましたが、いずれからも放射性物質は検出されていません。